

恐竜調査隊

が行く

岡山理科大教授 石垣 忍



巨大な恐竜化石を発見

「これは大きいぞ。1メートル。乾燥した風の吹くゴビ砂漠。白っぽいものが、地面から少しだけ顔を出している。」

「恐竜の骨だ」
「うーん……」
「さて、私かうなったまま無言なのはうれしくて声が出ないのではありません。」



2018年の岡山理科大―モンゴル共同調査で発見された巨大な竜脚類の骨

うれしいより複雑な気持ち

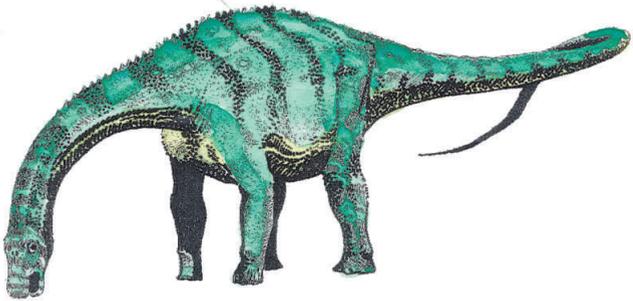
まめ ち しき 豆 知 識

調査隊は毎年たくさんの化石を見つけてきます。でも全部を掘るのではなく、優先順位をつけて発掘します。大型で発掘困難なものなどはその年はあきらめて来年以降の発掘となります。岡山理科大恐竜学博物館には2年がかりで掘った大型も、手にのるような小型も展示中です。土・祝日は予約制。詳しくは恐竜学博物館で検索。

実は大きな骨が出るとうれしいというより「複雑な気持ち」なんです。

「掘るのに何日かかる？」「人手は足りる？」

「食料と水は？」と心配ばかり。素直に喜べないんです。大きな骨は、掘り出すのも、運ぶのも、骨を岩からはずすのも、展示を作るのも大変で、手間とお金がかかります。



典型的な巨大恐竜、竜脚類。長さ30メートルを超えるものもありました（絵：ビャンバーツオクト）

それに、大きな恐竜を苦労して研究しても、小型恐竜を研究しても、どちらも論文は1本。だから論文の数で比較される研究者の世界では、大型恐竜の研究者が少ないんですよ。

そんなわけで手間のかかる大型の骨は、私たちの調査でも後回しにされることが多く、「見つかったけれど埋め戻してある」という巨大な骨はいくつもあるんですよ。場所は隊員以外には秘密。

「えー、そんなのもったいない！」ですって？

うーん。みんなが研究者になって調査に参加してくれて、どこかからものすごいお金の寄付があったら一緒に掘りに行こうね。室内で骨を石から取り出すのに何年もかかるからそれも手伝ってね。展示するために大きな博物館を作るのにも手を貸してね…。

えっ？ そんなら小さい恐竜でいいやだっってえ？ そんなあ…。